探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：西城中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
庄原市立西城中学校	4	57
庄原市立西城小学校	8	90

(R5.11.1現在)

１　研究の概要

（１）研究テーマ及び研究のねらい

①　研究テーマ

西城町のひと・こと・ものを活かした探究的な学習の創造
～元気な西城町を目指して～

②　研究のねらい

西城中学校区では、「西城町を元気にする」という目標をもち、地域教材及び人材を活用し、地域を巻き込んだ単元開発を行う。外部との連携、校外への取組成果の発信を工夫しながら学習を進めていくことで、児童生徒の意欲や達成感を高め、自信につなげ、中学校区で育成したい資質・能力の向上を図る。

（２）資質・能力の設定について

育成したい資質・能力を「主体性」「協調性」「課題解決力」と設定したが、昨年度は「課題解決力」の中の「積極的に表現する力」と「情報の整理・分析の充実」の観点に課題が見られた。それを踏まえ、今年度は、特に「表現活動の充実」に重点を置いて、資質・能力の育成を図る。また、「情報の整理・分析」も丁寧に行うことで、表現のバリエーションや内容の充実を図ることとした。

今年度の課題に伴って、生徒アンケートの評価項目を見直し、各学習活動で課題を意識した学習に取り組んだ。（表１）は改善したアンケート内容の項目である。　（表1）

項目	授業での具体的な姿
情報の収集・整理	課題解決に向けて、複数の手段で情報を集め（調べ）、整理している。
情報の分析	課題解決に向けて、集めた情報を複数のまとまりに分類しながら解決方法を考えている。
積極的にまとめ・表現	授業の中で自分の思いや考えをもち、様々な場面で表現しようとしている。
工夫してまとめ・表現	スピーチやプレゼン以外の表現方法も考えて伝えることができる。

更に、中学校では、毎時間の振り返りにおいても課題部分を意識し、日々の変容が常に確認できる振り返りシートを作成し、取組につなげた。（表２）は変更した振り返りの自己評価の観点である。　（表2）

項目	振り返りの視点
情報の収集	課題解決に向けて、複数の手段で情報を集めた。（調べた。）
整理・分析	課題解決に向けて、集めた情報を複数のまとまりに分類しながら解決方法を考えた。
表現力①	自分の思いや考えをもち、相手（仲間や先生など）に伝えようとした。
表現力②	スピーチやプレゼン以外の表現方法も考えた。
表現力③	教科等で学んだことと関連づけて考えたり、身に付けた技法を活用したりした。

（３）取組について

【新たな単元開発】

毎年新たな単元開発、単元の更新・改善を行っており、単元構成は、探究のプロセスを複数回繰り返しながら単元のゴールに向けてブラッシュアップできる形にしている。

今年度の新たな単元開発の例として、小学校では、地域の魅力を知るために体験的な活動を組み入れたり、地域の取組に携わっている方をゲストティーチャーとして招いたりするなど地域の方とのつながりをつくる学習活動を進めた。

中学校では、小学校で行う異校種での体験活動をプロセスの中に組み込んだり、地域の方へのインタビューや協働して新たなものを創り出す学習活動を設定したりして、表現力を向上させる取組を進めた。

【プレ探究学習】

「プレ探究学習」として、各学年の単元を学習する前に探究の過程を全体で体験することで理解を促したり、リーダーの育成を図ったりすることを目的とした取組を昨年度より進めている。今年度は特に表現力の向上に向け、縦割り班での活動において個々の考えを引き出しながら協議することや他の班へ表現する場を設定するなどして取組を進めた。小学校は３～６年の児童、中学校は全校生徒を対象に各校で縦割り班を構成してそれぞれの班で課題探究を行わせている。

具体的には、小学校では、テーマを「新しく来られた先生方に西城のこと、西城小学校のことを知ってもらおう」とし、動画の作成を通した表現活動を設定した。中学校では、テーマを「西中発信プロジェクト」とし、中学校から地域にできることを発信する企画を考えさせ、ポスターセッション等の表現活動を設定した。

この取組により、探究の過程の共通理解が進むとともに、他学年との交流でより多くの児童生徒と学び合う機会にもなった。また、教職員は、今年度の探究の課題である表現力への問題意識が共通のものとなり、継続して表現力の向上に向けて指導改善をしていく必要性を感じることもできた。

【課題の改善に向けた取組】

今年度の課題である児童生徒の表現力向上のため、多様な表現活動の機会を設定した。以下にその取組を整理する。

（１）単元への位置付け・様々な表現方法の提示

表現力向上のために、全学年のプロセス（小単元）の中に自分の思いや考えを他者に伝える場を設定した。プレゼンテーションソフトを使う以外の表現方法にも目を向け、インタビューやクイズや劇などの様々な表現方法で取り組めるように生徒に示した。

（２）小中連携及び他校との交流

相手意識をもった表現力の向上を図るために、他校種や他の学校と交流する機会を設定した。

小中連携では、中学校１年生が小学校４年生を対象に木を使ったイベントの体験を実行した。他校との交流では、中学校３年生が新たな伝統の創造に向けて竹原市立吉名学園の生徒と各校の実践について情報の交流をし、構想を深めた。

（３）地域との連携

コミュニケーション能力を高めるために、地域の人に自分の意見を伝えたり、地域の人から意見を聴いたりする学習の場を設定した。

小学校では、５年生が11月の新そば祭りでマルシェを開くために、西城町観光協会の方と連携し、地域の特産物を活用した商品開発を行い販売した。また、６年生は、夏にふるさと祭りの改善

についてふるさと祭り実行委員の方と検討する活動を行った。

中学校では、２年生が農業体験（職場体験）の中で、お世話になった農業体験先を地域に広報するという貢献活動として、自分たちからアイデアを提案し、農家の方と協働してポップや看板などを作成し、活用してもらう取組を行った。１年生では、学校運営協議会の方に授業へ参加していただき、自分たちが企画したイベントをプレゼンし、アドバイスをもらった。

このように地域の方々と連携する機会を設けることで、自分たちの考えを深め、単元の目標へ近づくことができた。

２　実践事例

〈中学校第１学年「みんなで見出そう！守りたい西城の伝統・イベント～再考・再興・最高！西城～」〉

自分たちの力で地域（西城）を元気にするプロジェクトとして新たなイベントの企画と提案を行った。以下に指導のポイントと工夫を整理する。

体験を通した情報収集

企画を始めるにあたり、まずは、「もっと地域を知りたい」という生徒の意見を踏まえ、地域での校外学習を行った。校外学習は、「森の学び舎比和」で地域資源の木を活用したクラフト体験、「道後山高原山荘」でイベントについてのインタビュー取材、「西城クロカンパーク」でグランドゴルフの体験をした。それぞれの場所で情報収集し、自分たちの企画に活かせる資料とした。

次に、この校外学習での学びを活かしたイベントを考え、実際に実施した。このイベントは、西城小学校４年生を対象にした木を使ったイベントで、イベント名を「ウッドフェスin西城」とした。このウッドフェスは、小学生に西城の木を材料にした自作のおもちゃで楽しんでもらうこと、地域のことを知ってもらうことの２つを目的として行った。（写真１）この模擬イベントでの生徒の達成感は大きく、次の学習活動への意欲となった。また、生徒はイベントの準備から実行の大変さも学び、次のイベント企画に活かすことができた。

（写真１）ウッドフェスの様子

自分たちが地域のイベントを創る

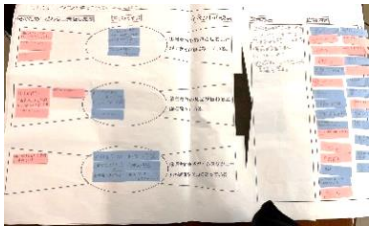
これまでの学習を活かし、地域の方々が元気になれる、そして実現性のあるイベントとして、「秋祭り」「雪祭り」「餅つき大会」の３つを企画した。また、企画を実現させるためのプレゼンに向けて、単元の目的やプレゼンの視点を繰り返し確認し意識をもたせた。（表３）は生徒に示したイベントを企画する際の視点である。

（表３）

①　対象者を満足させることができる企画になっている。
②　主催者の意図が伝わる企画になっている。
③　運営計画やタイムスケジュールが明確な企画になっている。

「熱意」をもったプレゼンテーション

この企画をさらにブラッシュアップするために、学校運営協議会の方に企画内容をプレゼンする場を設定した。プレゼンでは、内容とともに生徒が西城町を活性化させたいという熱い思いを伝えることと、このイベントなら一緒にやってみたいと学校運営協議会の方の気持ちを動かすことを目標にした。学校運営協議会の方には、２度授業に参加していただき、１度目のプレゼンをブラッシュアップして２度目のプレゼンに臨むという流れにすることで、他者の意見を聞き取るとともに注視させた。そのことにより実現性の高い企画にすることができた。（写真２）は、キャンディーチャートを使って１回目の学校運営協議会の方の助言と企画の視点を関連させて、プレゼン内容の課題を整理したものである。



（写真２）キャンディーチャートを用いた分析

３　研究の成果と課題等

（１）成果

課題に対する意識の変容

	西城小		西城中	
	４月	11月	４月	11月
整理・分析	52.9%	71.0%	56.7%	76.0%
表現力	62.9%	64.0%	51.9%	70.6%

成果は次の３つである。１つ目は情報の整理・分析力が向上したことである。情報の収集の工夫では、インターネット等で調べるだけでなく、直接インタビューをしたりアンケートをとって調査したりするなどのリアルな情報収集も取り入れた。多様な情報収集とともに前述のキャンディーチャートなどの思考ツールを活用して情報を多角的に分析し課題解決へつなげた。

２つ目は表現力の向上が見られていることである。探究の過程のまとめ・表現の場面を中心に、多様な表現方法を提示し、表現する機会を意識的に設定して取り組んできた。児童生徒は多様な方法で表現する経験をし、それに対する評価を自己評価だけでなく相互評価や教師の評価など多面的に行うことで、表現に対する自信も生まれている。

３つ目は郷土への関心がより高まったことである。３年間、小・中全学年で「西城を元気にする」という目標をもち、単元開発を行ってきた。実際に地域で活動を行ったり、地域の方との関わりを深めたりできたことで、自分たちが地域に役立ちたいという気持ちの高まりが行動やアンケート結果（肯定的評価82.3%）から見られる。また、教師がフィールドワークや地域人材の発掘と関係づくりを積極的に行ったことも単元づくりや授業づくりに活かされている。

（２）課題

課題は２つある。１つ目は、表現力の更なる向上である。表現力は向上しているものの、他の項目と比較すると数値は高くない。発表はできるが、自分から積極的に対話することは十分できなかったり、原稿を覚えて発表するにとどまっていたりする生徒が多い。

２つ目は、総合的な学習の時間に身に付けた力を他教科に十分活かしきれていないことである。教科横断的な意識をもって総合的な学習の時間で培った探究の仕方を、各教科の単元づくりに活用していくことについては十分ではない。

（３）今後の改善方策等

課題に対して今後次のように取り組んでいく。

次年度も表現する機会を単元計画に設定し、できたことを肯定的に評価するサイクルを重ねていく。また、表現することを教師主導ではなく、児童生徒主体の取組になるように教師のファシリテート力を高め、児童生徒自ら表現できるようにする。

今年度の内容を精査し、総合的な学習の時間を通して身に付けた探究の仕方などを全体で確認する場を設定する。探究の流れを各教科の学習、特に次年度の年間計画や授業づくり（単元開発）に活きるよう全体に周知する。